

3月の技術対策（水稻）

平成19年3月1日
J Aきたそらち・J A北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 融雪促進（苗床・本田）・ケイ酸補給（本田）

水田の乾土効果による土壤窒素は、湛水直後から速やかに発生するため、基肥施用と同様の効果があります。水田へのケイ酸の補給と融雪促進をかねてケイ酸資材の施用に努めて下さい(融雪効果を高めるには60kg/10a以上の散布が必要)。

苗床も融雪促進や除雪により、地温の確保に努め、出芽・生育不良を防止しましょう。

融雪材散布時期の目安：最高気温で0 以上、平均気温で - 3 以上の日が多くなって、まとまった降雪が予想されない時。

表1 最高気温で0 以上、平均気温で - 3 以上になる平年日 (深川、石狩沼田、幌加内)

地点	深川	石狩沼田	幌加内
月日	3月15日	3月16日	3月21日

表2 土壌型別のケイ酸材施用量

土 壌 型	ケイ酸資材施用量 (kg/10a)	
	ケイカル・ミネカル	みつかね
グライ土	150 ~	100 ~
泥炭土	180	120
灰色低地土	120 ~	80 ~
灰色台地土	150	100
褐色低地土	90 ~ 120	60 ~ 80

融雪材散布の注意事項

-)週間予報を参考に気温の高い日が続く日に散布して下さい。
-)降雪が20cm以上あった場合、再散布が必要です。

2 計画的な育苗に向けたは種、種子予措を

種子予措～は種～育苗の一連の育苗作業計画は気象条件から見た移植開始可能～終了日をもとに、育苗様式別の育苗日数や品種特性を考慮して決めましょう。育苗日数が長くなると苗質を損ない、老化苗や本田での早期異常出穂を招くので注意しましょう。

表3 育苗日数の目安

育苗様式	ほしのゆめ	きらら397	ななつぼし
成苗ポット	33 ~ 35日	35 ~ 38日	
中苗箱マット	31 ~ 33日		

表4 地域の移植早限の目安(アメダス平年値)

育苗様式	移植早限	深川	石狩沼田	幌加内
成苗ポット	11.5	5月14日	5月17日	5月20日
中苗箱マット	12.0	5月17日	5月20日	5月23日

)移植早限は、移植後5日間の平均気温が表の気温に達する日。

表3・表4より算出

表5 成苗ポットでの品種別は種早限目安

育苗様式	ほしのゆめ	きらら397	ななつぼし
深川	4月9 ~ 11日	4月6 ~ 9日	
石狩沼田	4月12 ~ 14日	4月9 ~ 12日	
幌加内	4月15 ~ 17日	4月12 ~ 15日	

表6 中苗箱マットでの品種別は種早限目安

育苗様式	ほしのゆめ	きらら397	ななつぼし
深川	4月14 ~ 16日		
石狩沼田	4月17 ~ 19日		
幌加内	4月20 ~ 22日		

3 種子消毒

表7 種子消毒剤の使用基準

処理時期	薬剤名	対象病害名					使用濃度 使用方法	使用時期	使用回数
		ばか苗病	褐条病	苗立枯細菌病	いもち病	リゾープス菌			
種籾浸漬	テクリードC フロアブル						200倍・ 24時間	浸種前	1
	モミガードC・ DF						200倍・ 24時間	浸種前	1
	エコホープ エコホープドライ (化学合成農薬成分数 にカウントされない)						200倍・ 24～48時間	浸種前～ 催芽前	-
						200倍・ 24時間	催芽時		

- 1) は登録あり。 は道の指導参考になっているもの。
- 2) 消毒液の水温は10以下にしない。
- 3) 対象病害名リゾープス菌は「苗立枯病(リゾープス菌)」を示す。

消毒済種子

消毒済種子は「モミガードC・DF」処理をしています。消毒済種子は、浸種後3日間は水の交換をしないでください。また、最初に水の交換をする際は静かに行いましょう。

4 種籾の浸漬と催芽

種籾の発芽を揃えるため、適水温と適日数を守ってください。18年産種籾は、高温登熟していて休眠が深くなっていると考えられますので、浸漬日数を通常より1～2日延長して下さい。

表8 種籾の浸漬水温と浸漬日数
(H18年産種子)

浸漬水温	浸漬日数	備考
10	9～10日	この範囲が 適水温、 適日数。
11	8～9日	
12	7～8日	

浸漬中の種籾の酸素不足を防止するために、水の交換は2～3日毎に(エコホープを使用した場合は1～2日毎に)1回行って下さい。

催芽時の温度は一定状態を保ち、催芽状態をこまめに確認して下さい。通常は30～32の温度で20時間程度で「ハト胸～2mm」の状態になります。催芽状態が悪い場合は4～6時間程度の時間延長が必要です。

褐条病対策

浸漬時に「循環式催芽機」を使用しシャワーにより酸素補給をしていると、酸素補給時に褐条病菌(シュドモナス菌)の感染を助長するので避けて下さい。

催芽は「静置式催芽」又は「蒸気式催芽」で行って下さい。

「温湯消毒」や「エコホープ消毒」は褐条病には効果がないので、循環式催芽機による浸漬、催芽は避けて下さい。

